

51st year

- 1 株主の皆様へ
- 4 中期経営計画「Smile2020」の
進捗状況／TOPICS
- 5 セグメント別状況
- 6 連結財務諸表

第51期 株主通信

2017年4月1日～2018年3月31日

株式会社 エヌアイディ

株主の皆様へ



株主の皆様におかれましては、平素より当社グループに格別のご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

さて、最近、AIやIoTといった言葉が一般的になってきました。IT、なかでもソフト面が、経済や産業の成長に不可欠との認識が広まってきたわけです。思い起こせば50年前の当社の創業時、業界自体の認知はいまだ深まっていませんでした。半世紀を経ての現状に、業界としては喜ばしい反面、競争が激化していることを実感します。データサイエンティストをはじめいわゆるIT人材の獲得競争が激しさを増している背景にも、業界を取り巻く環境変化があると考えられます。

こうしたなかで、当社は2016年に先端技術研究室を設置して、AIはじめ先進技術への知見を深めるとともに、人材確保・育成にも力を入れています。新卒採用は予定数を確保し、中長期的な視点で育成を進めているところです。また、2017

年度は中期経営計画「Smile（スマイル）2020」の初年度としても、大きな手応えを得ています。受託開発のみならず、お客様のニーズを見出して共に開発していくタイプの案件が増えていることは、将来への明るい材料になるとも考えています。

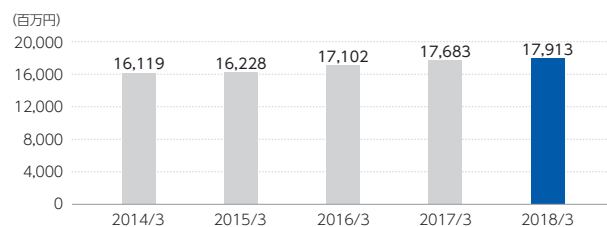
これらの結果、2018年3月期決算は、売上高17,913百万円（前期比1.3%増）、営業利益は1,826百万円（同0.4%減）にとどまったものの、経常利益2,015百万円（同2.4%増）、親会社株主に帰属する当期純利益1,362百万円（同4.4%増）と、概ね順調な中計初年度決算となりました。

株主の皆様におかれましては、なお一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

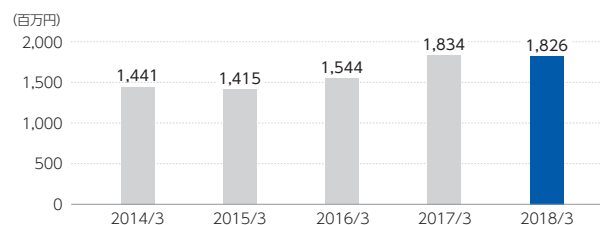
2018年6月

代表取締役社長 **小森 俊太郎**

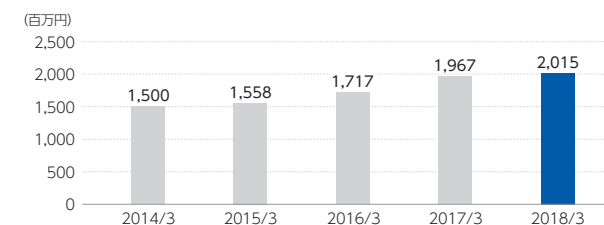
売上高 **17,913**百万円



営業利益 **1,826**百万円



経常利益 **2,015**百万円



将来に向けた 投資、研究、開発を継続し 中期経営計画の達成をめざします。



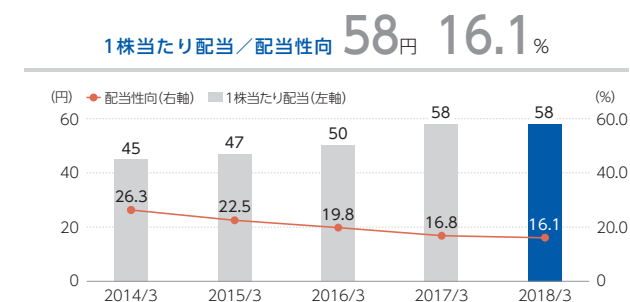
Q：2017年度の業績は いかがでしたか。

わが国の経済は、企業収益や雇用環境の改善が続き、設備投資も持ち直すなど、緩やかな回復基調となりました。海外では、米国政権の政策や北朝鮮の政治情勢などへの懸念があり、先行き不透明な状況が続いています。このような環境のなか

で、売上総利益の改善や営業外収益の増加等の増益要因があった一方で、環境変化に備えた先行投資によって販管費が増加した結果、営業利益は前年度に比べて微減となりましたが、売上高、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は増加し、過去最高を更新しました。

セグメント別に見ると、好調だったのは、ICTイノベーション事業とフィナンシャルシステム事

業です。ICTイノベーション事業では社会インフラ分野とホームエレクトロニクス分野の案件に注力し、増収増益となりました。また、フィナンシャルシステム事業では得意分野である生保・損保分野に集中したことにより効率化が進み、増収増益となりました。



Q：50周年記念の諸行事を経て変化はありましたか。

おかげさまで2017年、創立50周年を迎えることができ、さまざまな記念行事を催してきました。10月には、お客様を創業の地である千葉県佐原の祭礼にお招きし、お客様との距離が一段と縮まりました。また、50周年記念祝賀会を開催し、グループ社員一同に加え、創業時を知るOB・OGも多数参加し、社員の一体感が高まりました。

また、50周年記念の社内プロジェクトとして「未来ロード」と名付けた、チャレンジプログラムを実施しました。この企画は、社員が新たなチャレンジを経験し、視野や人脈を広げて人間的に一段と成長することを目的としています。社員が自分がやりたいことにチャレンジして極めるための「旅」を企画し、うち4名の社員を選考して実際に送り出しました。選考された社員は旅先から戻ってきた後、実務にその経験を活かし、いきいきと業務に励んでいます。

なにより、記念行事やプロジェクトを通じて、創業時からの理念「ヒューマンウェア 人が真ん中のしあわせな社会を知恵と技術で拓いていきます。」の真髓を再確認できた意義は大きいと思います。

Q：中期経営計画の進捗をどのように捉えていますか。

「Smile2020」の初年度を終えたわけですが、数字の面では一部計画していた投資に遅れが出ているものの、概ね順調に推移していると評価しています。「Smile2020」で注力分野としている5つの事業戦略、なかでもIoTやAIをはじめ先端技術に関わる新ビジネスへの引き合いが増えており、2017年度はいわば種まきができた手応えがあります。

Q：今後の展望をお聞かせください。

今期は「Smile2020」の目標を変えることなく、投資も含めて計画通りに着実に遂行していく考え

です。「Smile2020」の注力分野での事業展開は、今までの経験からは知りえないことへのチャレンジに他なりません。先端技術はもちろんのこと、世の中の動向や仕組みの理解や洞察が不可欠であり、全社を挙げてこうした面での質的向上を図っていきます。そして、3年目の目標達成をめざして邁進していきます。

また、当期末は前期の創立50周年記念配当5円を普通配当とし、1株当たり配当を58円に増配いたしました。今後も株主の皆様への利益還元を最重要課題として位置づけ、次期は2円増配の60円配当を予定しています。今後も企業価値を高めることにより、株主の皆様のご期待に沿えるよう努力してまいります。

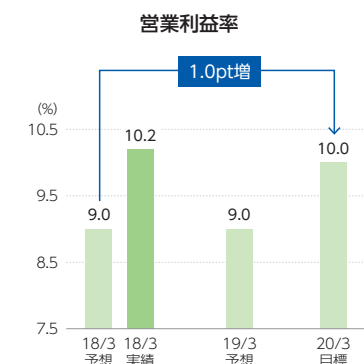
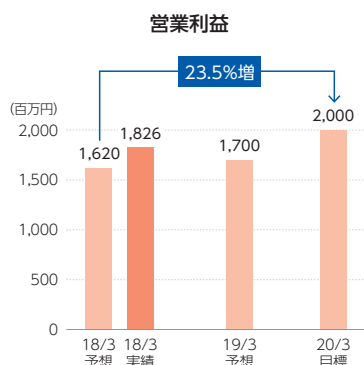
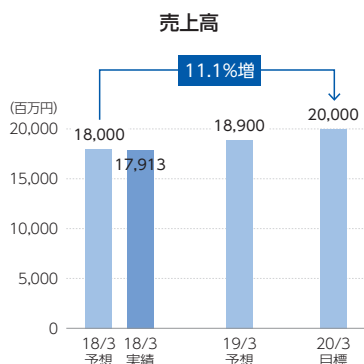
第52期連結業績予想	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
(2019年3月期)	18,900	1,700	1,800	1,240
(単位：百万円)	(前期比5.5%増)	(前期比6.9%減)	(前期比10.7%減)	(前期比9.0%減)

中期経営計画「Smile2020」の進捗状況

TOPICS

最終年度2020年3月期の目標「売上高:200億円／営業利益:20億円」に向かって、5つの事業戦略を掲げ精力的に取り組んでいます。

■財務目標の進捗状況



■事業戦略ごとの活動状況

<AI戦略>

ES事業／ICT事業／FS事業／NS事業

複数の研究開発案件に着手、中計期間中の収益化をめざす

- 大学やベンチャー企業等との協業により自然言語解析、画像解析等4件の研究開発案件に着手し、人材育成を加速。

<クラウド・インテグレーション戦略>

ICT事業／NS事業

クラウド環境を利用した開発ニーズ旺盛、順調に進捗

- ICT事業ではSaaS(*), PaaS(*), NS事業ではIaaS(*)案件の受注が好調。次年度以降、開発や構築後の保守まで提案できる体制を整え、受注拡大をめざす。
- AWS認定資格者増強計画は初年度の目標達成。コンサル業務の提供開始。

(*) SaaS・・・Software as a Service ソフトウェアをインターネット上でサービスとして提供

(*) PaaS・・・Platform as a Service 開発プラットフォーム一式をインターネット上のサービスとして提供

(*) IaaS・・・Infrastructure as a Service 仮想サーバやネットワークなどのインフラをインターネット上のサービスとして提供

<IoT&スマートファクトリー戦略>

ICT事業

大手メーカー顧客より各種センサー関連案件を複数受注

- データサイエンティストに対する需要が旺盛。データサイエンティスト育成を強化。
- 大学との協業によりIoTサービス関連の研究開発に着手。

<自動車CASE(*)戦略>

ES事業

大手国内メーカーからの受注が伸長

- 先進運転支援・自動運転に代表される車載エレクトロニクス人材に対する需要が旺盛。SoC(*)人材育成に着手。MBD(モデルベース開発) 人材育成を強化中。

(*)CASE・・・コネクティビティ(接続性)の「C」、オートノマス(自動運転)の「A」、シェアード(共有)の「S」、エレクトリック(電動化)の「E」

(*)SoC・・・System-on-a-chip ある装置やシステムの動作に必要な機能のすべてを、一つの半導体チップに実装する方式。

<プライムアカウント戦略>

ES事業／ICT事業／FS事業／NS事業／その他事業

複数の主要顧客で売上高前年比増を達成

- FS事業及びICT事業において主要顧客の大型案件増が寄与。
- 他の事業では重点戦略に沿った提案で受注増。
- 顧客別アカウントプランの充実により顧客内でのプレゼンス向上を推進。

NID東北が新オフィスへ移転

2017年10月、NID東北は仙台駅東口から徒歩5分に位置する仙台MTビルに移転しました。

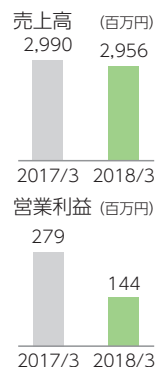
移転の目的として「企業価値の向上」、「働き方改革」、「リクルート」を念頭に掲げ、機能性に優れたオフィスが完成しました。

お客様のニーズに応えるべく、セキュリティ等各種設備の充実はもちろんのこと、「人・未来・自然が共存する“杜”」というコンセプトの下に統一されたレイアウトは、生産性の向上にも期待が持てます。

新しいオフィスで、社員一同新たな気持ちで業務に取り組んでおります。今後も株主の皆様のご期待に沿えるよう、一層努力してまいります。

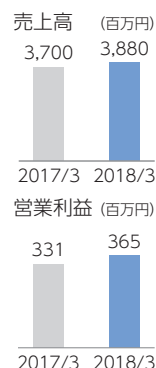


セグメント別状況



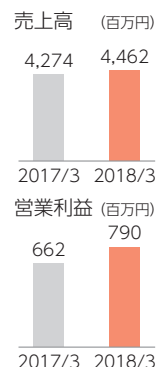
エンベデッドソリューション事業

当事業では、F A・制御装置分野の売上が増加したものの、カーエレクトロニクス、社会インフラ、メディカルシステム等の分野の売上が減少しました。この結果、売上高は2,956百万円(前期比1.1%減)、また、不採算案件の影響により、営業利益は144百万円(同48.3%減)となりました。



ICTイノベーション事業

当事業では、社会インフラ、ホームエレクトロニクス等の分野の売上・利益が増加しました。この結果、売上高は3,880百万円(前期比4.9%増)、営業利益は365百万円(同10.3%増)となりました。



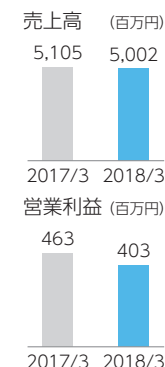
フィナンシャルシステム事業

当事業では、生保・損保分野の売上・利益が増加しました。この結果、売上高は4,462百万円(前期比4.4%増)、営業利益は790百万円(同19.3%増)となりました。

その他
1,610 百万円

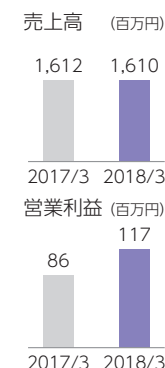


エンベデッド
ソリューション事業
2,956 百万円



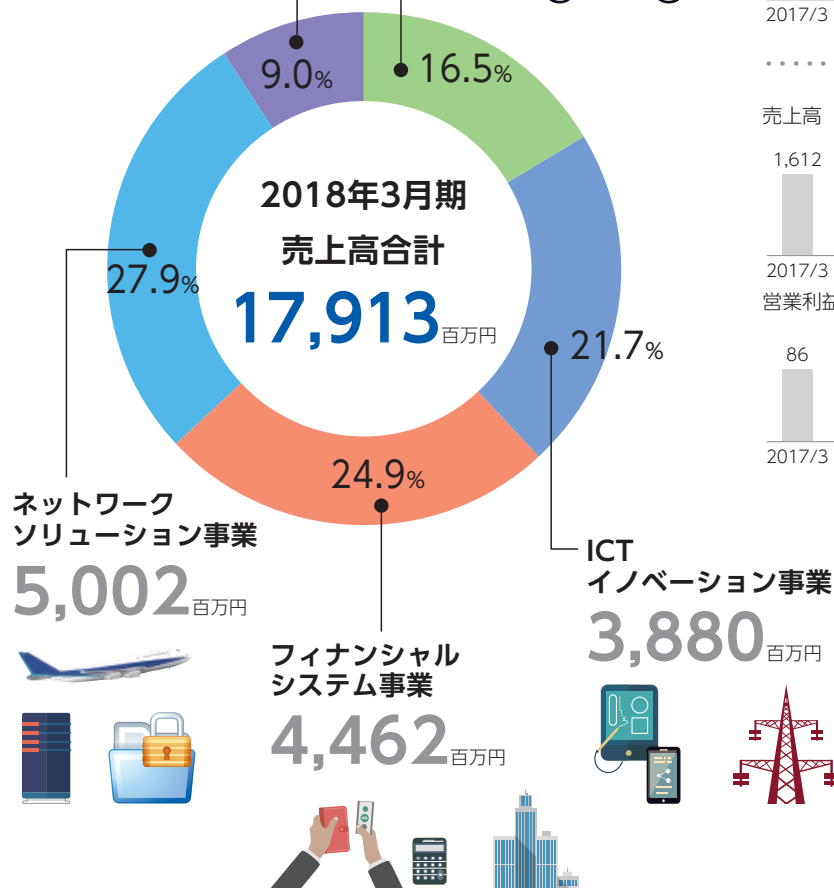
ネットワークソリューション事業

当事業では、官公庁・団体、その他等の分野の売上が増加したものの、運輸、金融・保険、製造等の分野の売上が減少しました。この結果、売上高は5,002百万円(前期比2.0%減)、営業利益は403百万円(同13.0%減)となりました。



その他

その他には、データソリューション事業、プロダクト事業、人材派遣事業を分類しておりますが、それぞれの事業で安定した売上を確保するとともに、生産性改善が進みました。この結果、売上高は1,610百万円(前期比0.1%減)、営業利益は117百万円(同35.3%増)となりました。



連結財務諸表

連結貸借対照表 (要約)

(単位：千円)

科 目	前 期 (2017年3月31日現在)	当 期 (2018年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	11,384,757	12,019,076
固定資産	4,184,394	4,848,263
有形固定資産	275,130	295,933
無形固定資産	119,793	107,814
投資その他の資産	3,789,470	4,444,514
資産合計	15,569,152	16,867,339
負債の部		
流動負債	2,431,155	2,490,950
固定負債	2,884,319	2,957,239
負債合計	5,315,474	5,448,190
純資産の部		
株主資本	9,828,401	10,971,212
資本金	653,352	653,352
資本剰余金	488,675	488,675
利益剰余金	9,913,319	11,056,396
自己株式	△ 1,226,945	△ 1,227,211
その他の包括利益累計額	425,276	447,936
純資産合計	10,253,678	11,419,149
負債純資産合計	15,569,152	16,867,339

連結損益計算書 (要約)

(単位：千円)

科 目	前 期 (自 2016年4月 1 日 至 2017年3月31日)	当 期 (自 2017年4月 1 日 至 2018年3月31日)
売上高	17,683,440	17,913,405
売上原価	13,968,075	14,103,048
売上総利益	3,715,364	3,810,357
販売費及び一般管理費	1,881,209	1,983,683
営業利益	1,834,154	1,826,673
営業外収益	143,838	195,003
営業外費用	10,142	6,432
経常利益	1,967,850	2,015,244
特別利益	1,178	433
特別損失	29,485	3,496
税金等調整前当期純利益	1,939,543	2,012,181
法人税、住民税及び事業税	665,883	677,492
法人税等調整額	△ 31,255	△ 27,939
当期純利益	1,304,915	1,362,627
親会社株主に帰属する当期純利益	1,304,915	1,362,627

連結キャッシュ・フロー計算書 (要約)

(単位：千円)

科 目	前 期 (自 2016年4月 1 日 至 2017年3月31日)	当 期 (自 2017年4月 1 日 至 2018年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,184,250	1,862,321
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 318,159	△ 836,670
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 197,976	△ 227,657
現金及び現金同等物の増減額	668,114	797,993
現金及び現金同等物の期首残高	6,474,172	7,142,287
現金及び現金同等物の期末残高	7,142,287	7,940,280

会社概要 (2018年3月31日現在)

社 名 株式会社エヌアイディ
英 社 名 (Nippon Information Development Co., Ltd.)
所 在 地 〒104-6029
(本 社) 東京都中央区晴海 1-8-10
TEL: 03-6221-6811 (代)
FAX: 03-6221-6812

設 立 1967年5月
資 本 金 6億5,335万円
役 員 取締役最高顧問 小 森 孝 一
(2018年6月27日現在) 取締役会長 鈴木 清 司
代表取締役社長 小 森 俊太郎
専務取締役 馬 場 常 雄
常務取締役 北 雅 昭
取締役 盛 満 敏 昭
取締役 石 井 廣
取締役 加 藤 政 次
取締役 小 菅 宏
取締役 濱 田 清^{*1}
常勤監査役 鈴木 衛 哲 雄^{*2}
監 査 役 千 年 雅 行^{*2}
監 査 役 松 山 元^{*2}

※1.濱田氏は社外取締役であります。

※2.千年氏及び松山氏は社外監査役であります。

社 員 数 連結1,412名 単体960名
事 業 内 容 ・エンベデッドソリューション事業
・ICTイノベーション事業
・フィナンシャルシステム事業
・ネットワークソリューション事業
・その他事業

グループ会社 (株)NID・MI
(株)NID 東北
(株)NID・IE

主要取引銀行 三菱UFJ銀行
みずほ銀行
千葉銀行
三井住友銀行
三菱UFJ信託銀行
佐原信用金庫

株式の状況、株主メモ、株主様向けアンケート

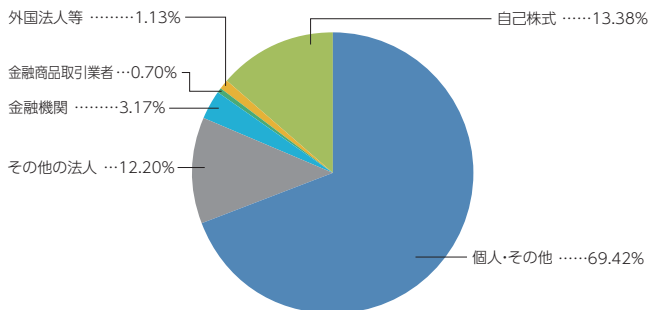
株式の状況 (2018年3月31日現在)

(1) 発行可能株式総数	17,479,320株
(2) 発行済株式の総数	4,369,830株
(3) 株主数	914名
(4) 大株主	

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
小森 俊太郎	633,860	16.75
小森 孝一	549,282	14.51
エヌアイディ従業員持株会	351,596	9.29
株式会社クリエートトニーワン	233,700	6.17
株式会社光通信	189,500	5.01
小澤 忍	150,032	3.96
鈴木 清司	108,092	2.86
一般財団法人小森文化財団	100,000	2.64
馬場 常雄	75,350	1.99
菅井 源太郎	72,792	1.92

(注) 1. 当社は、自己株式を584,537株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
 2. 持株比率は、自己株式を控除して計算しております。
 3. 持株比率は、小数点第3位を四捨五入して表示しております。

所有者別株式分布状況



【商標について】 記載されている製品名などの固有名称は、各社の商標または登録商標です。

株主メモ	
事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町 1-1 0120-232-7111 (通話料無料)
連絡先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
郵送先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所 JASDAQ市場
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.nid.co.jp (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式会社 エヌアイディ

〒104-6029 東京都中央区晴海 1-8-10
 TEL:03-6221-6811(代) FAX:03-6221-6812

<http://www.nid.co.jp>

株主様向け
アンケート

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、
 アクセスコード入力後に表示される
 アンケートサイトにてご回答ください。
 所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>
 アクセスコード 2349

いいかぶ

検索

空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から
 抽選で薄謝(図書カード500円)
 を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media (エー・ツー・メディア) の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2media についての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL:03-5777-3900 (平日 10:00~17:30)
 「e-株主リサーチ事務局」 MAIL:info@e-kabunushi.com



見やすく読みまちがえにくい
 ユニバーサルデザインフォントを
 採用しています。